

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2025年1月7日放送分・燕沢／比丘尼坂】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- シリーズ「東番丁の旅」は、仙台城下東西の物流軸である原町を抜け、幕末に立てられた「原町苦竹道知るべ石」を北へ(左折)。いよいよ城下町の外、その先の「塩竈街道」に入っていきます。実はこの「塩竈街道」、原町～燕沢辺りまでを「松原街道」といいます。街道沿いに松の並木があったため、こう呼ばれているのです。数百本の松は藩政時代初期に植えられたとされ、樹齢300年を越える大木もありましたが、太平洋戦争中に根から油を採るために伐採されてしまいました。残っていればさぞかし美観だったろうと思いますが、残念ですね。
- 松原街道は原町からしばらく行った所でさっそく、県道8号(利府バイパス)に分断されてしまいますが、よ～く見ると道路の向こう側に道はちゃんと続いていますよ。NHKのラジオ送信所の先で利府バイパスに合流し、かず離れずしながら東へ向かっているのが分かります。

- 私と木村さんは、街道から北にそれて宮城野区燕沢の善応寺へ。ここは三代藩主・伊達綱宗の菩提寺であり、「蒙古碑」という不思議な板碑でも知られています。鎌倉時代の蒙古襲来で敗走した蒙古兵がこの地にたどり着き、かくまわれたものの斬られてしまった事を供養する碑だといひます。石碑には当時の年号である「弘安」と刻まれています。上述の伝説の信ぴょう性も含め、誰が何の目的で立てたものか一切が謎に包まれたままの遺物です。また、善応寺の裏山からは山裾に穿たれた古代の墓が複数見つかり、たとえば国府多賀城などに関係のある位の高い官人達の墓であると考えられています。



- 今月の辻標は善応寺の東側、市営バス東仙台営業所そばの坂を北に上がった住宅街の一角にある「燕沢／比丘尼坂」です。平安時代半ば、朝廷に反旗を翻した平将門の妹が相馬から逃れてこの地にたどり着き、出家して比丘尼と呼ばれる尼さんになり、道行く人に甘酒を売ったと伝わっています。これも伝説のひとつとして真偽のほどは不明ですが、古代から人の往来があった街道沿いに相応しい逸話かもしれませんね。

〈文・佐々木淳吾〉

